

報告

日本技術士会北海道本部
第57回 年次大会・講演会

長井智典

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、今年の年次大会は、昨年と同じく会場出席を幹事及び各委員会等の代表者など人数を制限し、オンラインを併用したハイブリッド型で開催しました。

年次大会資料は予め北海道本部のホームページ「会員・会友のページ」上に掲載し、質問・意見等をメールにて受付いたしましたが、事前の質問・意見等はありませんでした。

例年、講演会の後に懇親会を行い、近況報告等の情報交換を行っておりますが、残念ながら今回も開催することが出来ませんでした。なお、司会は例年通り飯野事務局次長が行いました。

・開催日時：2022年7月15日(金)

《第1部》年次大会
15:30～16:30
《第2部》講演会
16:30～17:30
《出席者》



写真-1 飯野事務局次長

会場：26名、

WEB視聴：51名、合計：77名

2. 年次大会(15:30～16:30)

今回は定期報告として5つの報告が行われました。年次大会資料を、本会誌後ろの年次大会報告に掲載していますのでご覧ください。

(1)開会挨拶

はじめに大熊本部長より、コロナ禍におけるデジタル化の加速と大手通信会社による大規模通信障害からのリスクマネジメントの重要性、科学技術立国の実現とロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー問題を例に、私たち技術士はこれらのピンチをチャンスに変える必要があり部門の壁を乗り越えて強力

に連携し高度な応用能力を発揮して欲しいとのお話があり、続いてCPD活動の継続と実績登録の依頼があり、日本技術士会北海道本部が地域社会や住民に開かれた活動を積極的に取り入れ、地域に貢献すると共に、技術士の知名度向上、認知度向上に寄与して欲しいと結ばれました。



写真-2 大熊本部長

(2)報告事項と質疑応答

以下5件の報告がありました。事前及び当日の質問・意見等はありませんでした。

①第1号報告(2021年度事業報告及び決算報告)

羽二生事務局長より、2021年度の事業及び決算報告が行われ、成田会計幹事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。



写真-3 会場の様子

②第2号報告(2022年度事業計画・予算説明)

前号に続いて、2022年度の事業計画と予算についての説明が行われました。今年度もコロナの影響により繰越額がコロナ前の2.2倍に増加している状況から、活動の活性化に期待して単年度マイナス収支の予算計画となったことが報告されました。当面、2024年度の北海道での全国大会までは、収支バランスを意識しつつ臨機応変の運用となります。(詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います。)

③第3号報告(北海道本部委員会等役員について)

2022年度の北海道本部委員会等役員の交代について報告がありました。社会活動委員会の幹事長に永井技術士、北方海域技術研究委員会の幹事長に佐藤技術士が新たに就任され、その他の方は前年度と変更ありませんでした。

④第4号報告(日本技術士会新名誉会員)

名誉会員推薦規則に基づく北海道本部からの推挙者について、事務局より報告がありました。北海道本部からは、齊藤特別顧問を推挙し、2022年度第1回理事会において承認されました。齊藤特別顧問は、平成7年度～平成12年度まで北海道技術士センター事務局長、平成9年度～平成14年度まで北海道支部事務局長、平成15年度～平成20年度まで北海道支部副支部長、平成17年度～20年度まで統括本部理事、平成21年度～平成24年度まで北海道支部長(H23より北海道本部長)を務められ、現在は当本部の特別顧問になられています。

⑤第5号報告(日本技術士会会長表彰者)

2022年度日本技術士会会長表彰の受賞者について事務局より報告がありました。北海道本部から、小島尚三氏、武智弘明氏、樋詰透氏が受賞されました。

新名誉会員、会長表彰受賞者の略歴等は本会誌グラビアをご覧ください。

3. 講演会(16:30～17:30)

今回は北海道大学大学院工学研究院地域環境研究室助教の山形定氏をお迎えし、「自然エネルギー利用社会への転換に向け技術士に期待すること～北海道から発信する“地域主導のとりくみ”～」と題してご講演いただきました。

(1)講師のご経歴

山形様は、山形県山形市にお生まれになり、山形大学工学部応用化学科をご卒業後、東京大学大学院工学系研究科化学



写真-4 山形助教

エネルギー工学専攻博士課程を修了され、北海道大学工学部衛生工学科助手となりました。

その後、工学研究院大気環境保全工学研究室助教を経て現職に就かれており、大気環境保全、自然エ

ネルギー利用、木質バイオマス、エネルギーにおける民主主義などの研究分野において、多くの論文を学会・専門誌に発表されています。

また、2012年からNPO法人北海道新エネルギー普及促進協会(NEPA)理事長に就任されており、昨今、統括本部の技術士資格活用委員会の施策である「技術士の知名度向上と資格活用の拡大に向けた大学、大学関連NPO法人、その他学術団体等との協働のための仕組み検討」にご協力いただいております。

(2)講演について

講演会では、自然エネルギーに取り組む前の先生の研究歴から始まり、北海道における自然エネルギーの現状、様々な自然エネルギーへの取組み事例の紹介、地域で自然エネルギーを開発するために私達が考えるべきこと、北海道を自分たちで変えていくためのヒントについてお話しされ、“地域にある自然エネルギーを地域主導で開発”、“専門だけでなく広い視野で技術を見直し”、“先住民の生き方に学び自然エネルギーの活用を考える”と結ばれました。

お話しの中、特に北海道での自然エネルギーへの取組みの中で、導入されている発電装置の多くが外国製であり、こういう既存の技術プラスアルファの所について北海道でやれるものが色々あると思われる、それを全部外国から買って使っているのが悲しく、水力やガスのエンジンであれば北海道で何とかなるのではないかと。また、地元で自然エネルギーが定着するには、地元でダメ出しをしながら技術開発をやっていくというのが必要と主張されていました。

4. おわりに

今年度もハイブリッド型の年次大会となりました。終息に向かうかと思いきや第7波により先の見通せない状況が続いています。そんなコロナ禍の中、今回快くご講演をお引き受けいただいた山形様、そして参加者の皆様に心からお礼申し上げます。

長井智典(ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

